

=私たちの活動 4つの柱=
 *制度化と指導員の身分保障
 *専門性と仕事の確立
 *父母と共に学童保育運動の発展
 *全国の指導員との団結と連帯

中央本部大会、コロナ禍から

仲間の仕事と生活を守ろう

「第22回建交労中央本部定期大会」が、8月29日〜30日に開催されました。

定管理先が変更になった問題について発言しました。

基準の強化を求める

全国から様々な支援をいただいたが、指定管理先が変更になった。指導員は全員パート待遇で、働いていた仲間の大半が退職。新しい指定管理者は安全な保育ができません。立嶋部会長は、この間の新型コロナをめぐる動きから、学童保育の課題について発言しました。

子どもは40人となっているが、子どものための基準ではない。心を受け止められ安心を保障する基準作りが必要だ。

子どもへ安心のメッセージを

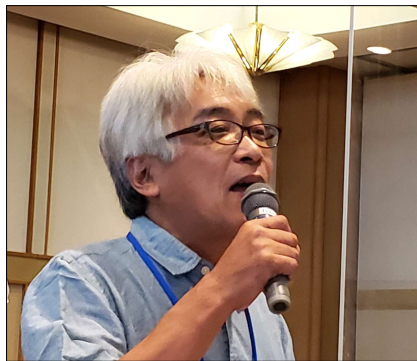
市川さん（愛知）は、コロナ禍の学童保育の実態と組合活動を発言しました。

再開された学校生活は制限ばかりで、子どもは息苦しいよう。学童保育で感染防止はもちろん、子どもへ安心のメッセージを送るよう心掛けた。組合の中で議論してきたことの成果である。

管理者変更で安全確保されず

阿部さん（福岡・学童副部会長）は、4月に指

者が安全な保育ができません。新しい指定管理者は安全な保育ができません。その時、気づいたこと



全国学童保育部会 特別代議員の立嶋さん。

緊急事態宣言で学童保育所利用自粛が指示された。その時、気づいたこと

学童保育に利用自粛が指示された期間、現場も保護者も大混乱であった。子どもだけで留守番をしているところ、公園で



福岡県本部特別代議員の阿部さん。

いばかりか、子どもへのパワハラもある。学童保育は、ハウスではなくホーム。よりよい学童保育作りに一歩踏み出していきたい。今の国の基準は、



愛知学童保育支部 代議員の市川さん。

大会では、福岡支部の坂江さんが2日間にわたる大会議長の大役を務めました。また、機関誌表彰では、学童部会のニュースが審査員特別賞を受賞しました。



大会議長をつとめた福岡合同支部代議員の坂江さん。